

新型コロナ禍中における 余暇消費動向に関する一考察

～2019年から2020年にかけて～

林 健 太

要旨

本稿では、インターネットを用いたアンケート調査を通して、新型コロナ禍前（2019年1月～2019年12月）とコロナ禍中（2020年1月～2020年12月）の2期間において、人々の消費マインドや余暇時間がどのように変化したかについて考察する。平日一日あたりの余暇時間は、テレワークやオンライン授業の普及ないし外出の自粛を余儀なくされたことで増加傾向にある。国内旅行、現実の店舗での買い物や外食などの、制限を強いられた財に対する消費意欲が健在な一方、動画配信サービスや書籍・雑誌、オンラインショッピング、家庭用ゲーム機といった、巣ごもり需要を満たしてくれる財への積極的な支出傾向が観測された。

キーワード：コロナ禍、移動制限、余暇消費、余暇支出、巣ごもり需要

目次

はじめに

- I. アンケート調査概要
- II. 回答分布の比較
- III. 分析結果のまとめ

はじめに

2020年1月に国内で初めて新型コロナウイルス感染者が確認されて以降、⁽¹⁾国民の生活様式は一変した。同年に開催予定であった東京五輪をはじめ、多

くのスポーツ・文化関連イベントが中止もしくは延期へと追いやられたことは記憶に新しい。度重なる緊急事態宣言が各地で発令されたことで、人々は行動の自粛を余儀なくされた。企業はリモートワークの導入を進めざるを得なくなり、大学をはじめとした各種教育機関もまたオンライン対応を求められるなど、多くの混乱が生じた。

一方で、コロナ禍による副産物もあった。リモートワークやオンライン授業の普及を通じて、通勤・通学に要していた移動時間を大幅に削減できることに人々は気づきはじめたのである。移動に費やしていた時間を多様な活動に使えるようになったことで、消費者にとっては、空いた移動時間（余暇）をいかに副業や趣味・娯楽などに配分して消費するかが、新たな課題となり、またコンテンツ供給者にとっては、増加する消費者の余暇需要（巣ごもり需要）の取り込みを、新たな収益の機会として捉えることが重要となろう。

これまでも、余暇や生活時間の消費というテーマについては、労働や観光などの分野を中心に取り扱われてきた。Becker（1965）は家計の消費支出と生活時間の配分について先駆的に研究し、家計の時間の使い方には労働と余暇の他にも様々な種類があると主張した。彼は非労働時間の配分と効率は労働時間のそれよりも経済厚生にとってより重要となる可能性について言及し、家計の時間配分問題を分析するための基礎的フレームワークを作成した。

Aguiar and Hurst（2007a）は、1965年からのおよそ40年間で収入の増加に伴い、平均的な米国人の余暇時間は男女ともに大幅に増加したことを発見した。しかしながら、高学歴の成人の賃金と消費支出がより早く増加した最後の20年においては、教育水準の低い成人が余暇の相対的消費を増やしているとし、賃金と支出の不平等が拡大するのと同様に余暇の不平等の拡大が起きていると述べている。

（1）朝日新聞 DIGITAL, 「新型コロナウイルス感染 日本の1年」参照。

新型コロナ禍中における余暇消費動向に関する一考察

日本における余暇の研究としては、次のようなものが挙げられる。黒田(2012)はフルタイムで働く日本人男女の余暇時間の推移について観察し、⁽²⁾1970年代以降、現役世代の平日の余暇時間は減少しているのに対し、休日数や引退後の余暇時間は著しく増加していることを発見した。また、教育年数が長い労働者ほど平日や週当たりの余暇時間をより多く削減していることも指摘している。

栗原(2020)は、1986年から2016年までの「社会生活基本調査」と1984年から2014年までの「全国消費実態調査」(共に総務省統計局)を統合した擬似的な地域パネルデータを用いて生活時間と消費支出を同時に補足した分析モデルを想定し、日本における財の投入に伴う生活時間への影響について分析を行った。約30年間のデータ分析より、家計における女性の行動に関しては、中食などの財への支出が家事時間の減少をもたらしているとし、また、教育娯楽費への支出比率が高い世帯の妻は育児に時間を割く傾向があることなどを述べている。

阿部他(2021)は、2017年と2018年の2回にわたる余暇と消費に関するアンケート調査に基づき、家計内生産関数の時間投入と財投入の間の代替の弾力性の符号について検討した。その結果、日本における専業主婦(夫)家計では、「所得が増加しても、利用可能総時間が増加しない限り、家計のサービス生産活動に対する財投入の増加は限定的である」として、日本におけるサービス生産活動では、諸外国と異なるメカニズムが働いていることを示唆した。

鶴見他(2021)は、新型コロナウイルス感染症流行下において、幸福度や

(2) 黒田(2012)では、余暇時間は、「社会生活基本調査(総務省統計局)」で取り上げられている行動項目のうち、「睡眠」「身の回りの用事」「食事」「学業」「買い物」「移動(通勤・通学を除く)」「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」「休養・くつろぎ」「学習・研究(学業以外)」「趣味・娯楽」「スポーツ」「社会的活動」「交際・付き合い」「受診・療養」「その他」の総計と定義している。

生活満足度をはじめとする主観的福祉と、人々の物質的消費や関係性消費⁽³⁾との関係性について、インターネット調査を通じて考察した。その結果、コロナ下においては、関係性消費、物質的消費、主観的福祉のいずれもが減少し、特に旅行やオンラインショッピングの位置づけが、2019年からの2年間で全く変わったことを挙げている。

その他、国内外で、生活時間の消費に関する研究は数多く存在するが、それらでは移動時間の削減効果は考慮されていない。そこで本稿では、新型コロナウイルス感染症の影響により、移動を制限された中で、とりわけ人々の余暇消費マインドにどのような変化が生じたのかを、アンケート調査を通じて考察する。

以下、Ⅰ節ではアンケート調査の概要を記す。Ⅱ節では回答分布の比較を行い、Ⅲ節では分析結果のまとめについて述べる。

Ⅰ. アンケート調査概要

本調査の概要は下記の通りである。アンケート調査票については巻末の付録を参照されたい。

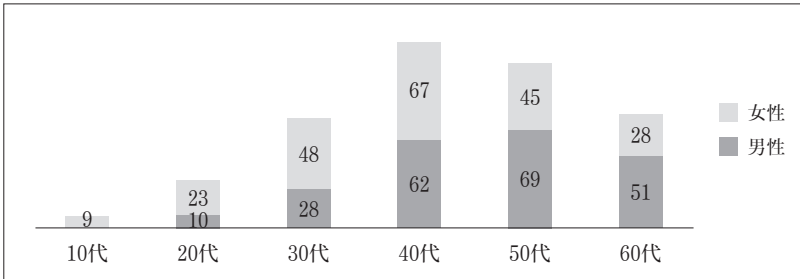
- 調査実施日：2020年3月5日
- 実施方法：インターネット調査による
- 有効回答数：440

本調査における回答者は、全国の10代から60代までの男女（共に220名）である。図表1にあるように、「40代」、「50代」の回答者が中心となっている。

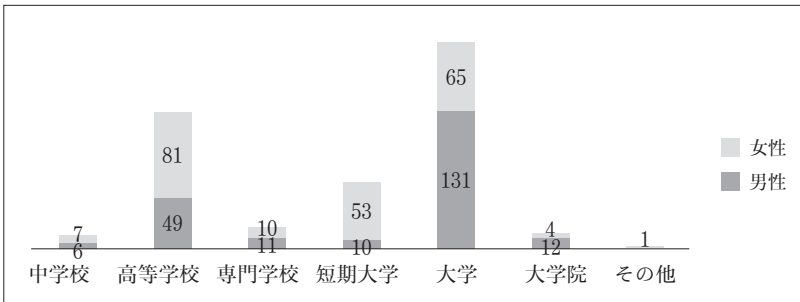
(3) 鶴見他(2021)では、物質的消費は、世帯での家電、家具、寝具、服・靴、書籍、その他の雑費のひと月あたり平均購入額を指し、関係性消費は、旅行、贈り物、交際費、家族や友人・知人との自宅での食事、家族や友人・知人との外食のひと月あたり平均購入額としている。

新型コロナ禍中における余暇消費動向に関する一考察

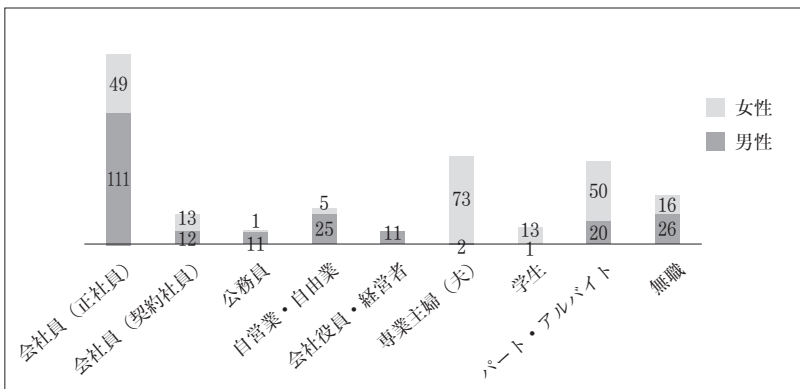
図表1 Q1. 回答者属性（年齢）（単位：人）



図表2 Q2. 回答者属性（最終学歴）（単位：人）



図表3 Q3. 回答者属性（職業）（単位：人）



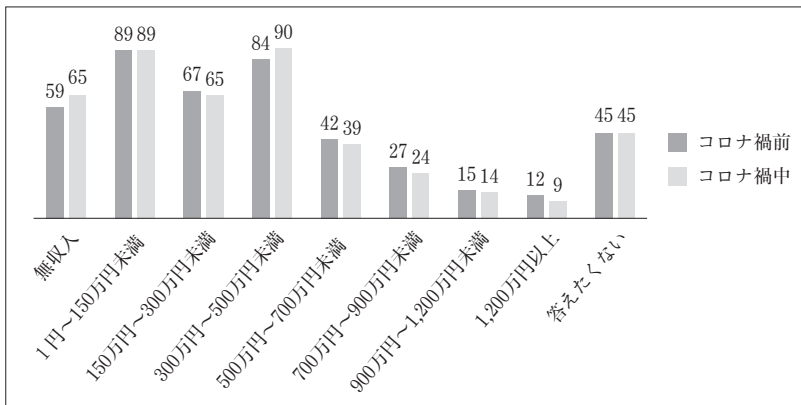
また図表2より、回答者の最終学歴は、男性では「大学卒」が、女性では「高等学校卒」もしくは「短期大学卒」が多くなっている。

図表3は職業別分布を示している。男性は半数が「会社員（正社員）」であり、「自営業・自由業」と並んで「無職」が目立つ。対して女性は、「専業主婦」、「パート・アルバイト」、「会社員（正社員）」の順となっている。

II. 回答分布の比較

図表4以降に示す回答結果は、新型コロナ禍前（2019年1月～2019年12月）とコロナ禍中（2020年1月～2020年12月）の2期間のいずれか、もしくは両方について尋ねたものであり、図表4ではコロナ禍前後の年収の変化を見ることができる。年収「500万円以上」の層では若干の年収減が観測されるものの、全体的に大きな変化は見られなかった。

図表4 Q4. コロナ禍前後の年収の変化（単位：人）

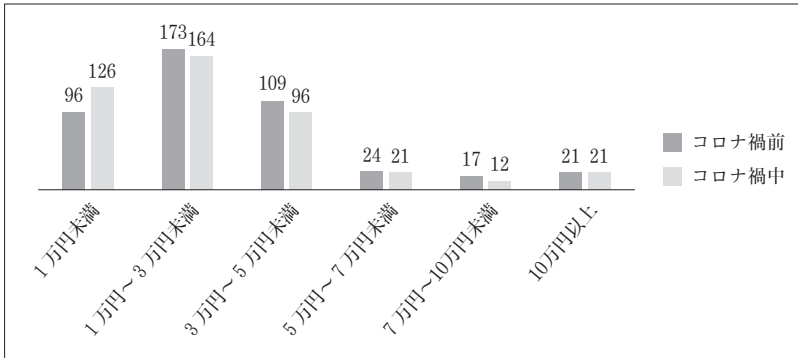


図表5は、趣味・娯楽に自由に使える一月あたり金額の変化を示している。「10万円以上」使用可能な富裕層に変化は見られない一方、「1万円以上10万円未満」の層では総じて減少している。そして「1万円未満」の層が大きく

新型コロナ禍中における余暇消費動向に関する一考察

増加しているのが特徴的であり、図表4にて年取の変化が顕著に見られないことから、新型コロナウイルス感染症の流行という未曾有の危機を目前にして、不要不急な財への消費マインドの冷え込みが見てとれる。

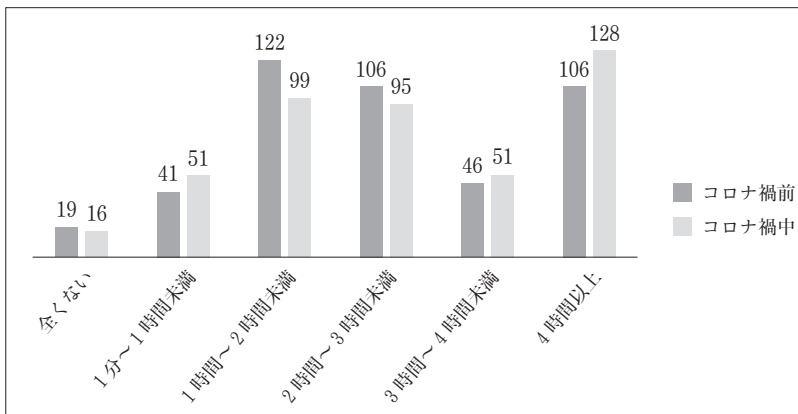
図表5 Q6. コロナ禍前後の趣味・娯楽に自由に使える金額の変化（1ヶ月）
（単位：人）



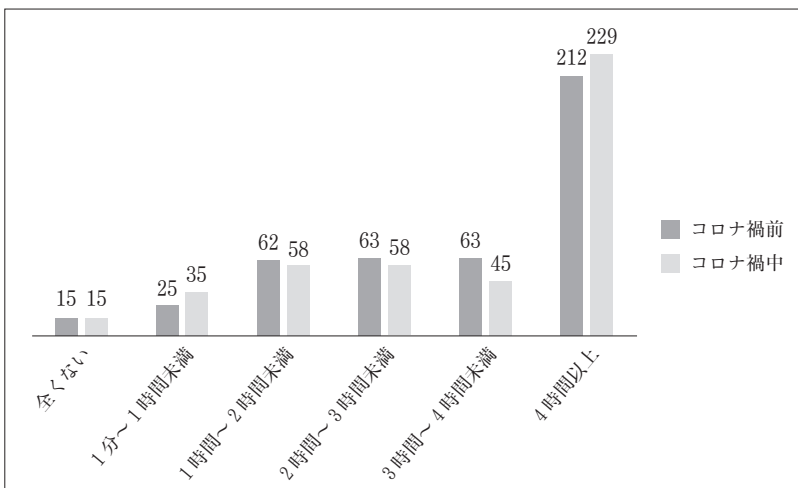
図表6と図表7では、それぞれコロナ禍前後での、平日と休日一日あたりの平均自由時間（余暇）の変化を表している。平日においては、「1時間以上3時間未満」の自由時間減少とは対照的に「3時間以上」、とりわけ「4時間以上」の自由時間の増加が見られる。また、「全くない」層が減少し、「1分以上1時間未満」が増えていることは、社会環境の変化により、これまでほとんど平日に休むことを許されなかった人々に、若干の時間的余裕が生まれていることを示唆しており、黒田（2012）とは逆の結果と言えよう。休日においても平日と同様、「1分以上1時間未満」と「4時間以上」の増加が見られるが、「1時間以上4時間未満」については、平日ほどの変化はなかった。

図表8では、Q7.およびQ9.において、自由に使える時間が「少し増えた」「かなり増えた」と答えた97名からの回答をもとに、コロナ禍中の自由時間の増加理由を掲載している。それによると、「テレワーク／オンライン授業

図表6 Q8. コロナ禍前後の自由に使える時間の変化（平日）（単位：人）



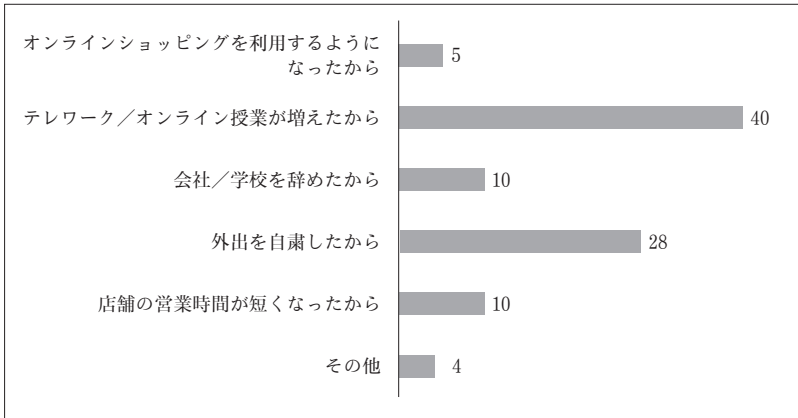
図表7 Q10. コロナ禍前後の自由に使える時間の変化（休日）（単位：人）



が増えたから」が回答者のおよそ4割を、「外出を自粛したから」が3割弱を占める。また「その他」の4名については、いずれも緊急事態宣言発令に伴い時短勤務あるいは休業せざるを得なくなった旨の回答（自由記述）であ

新型コロナ禍中における余暇消費動向に関する一考察

図表8 Q10. コロナ禍中の自由時間増加理由 (n=97)



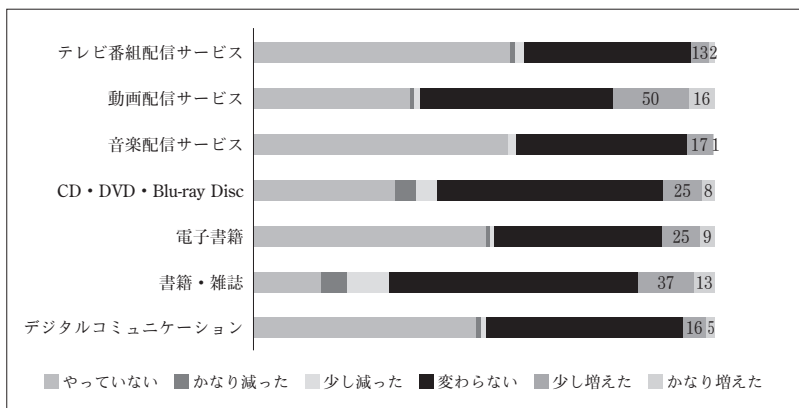
ることから、「店舗の営業時間が短くなったから」に含められると考える。

以上より、新型コロナウイルス感染症流行下においては、テレワーク／オンライン授業への移行や外出の自粛等により、趣味・娯楽等に自由に使える時間的余裕が増加した状態にあることが分かった。ではその余暇消費にはどのような変化があったのであろうか。様々なサービスに対しての支払金額の変化を尋ねたものを、以下の図表9から図表12に示す。

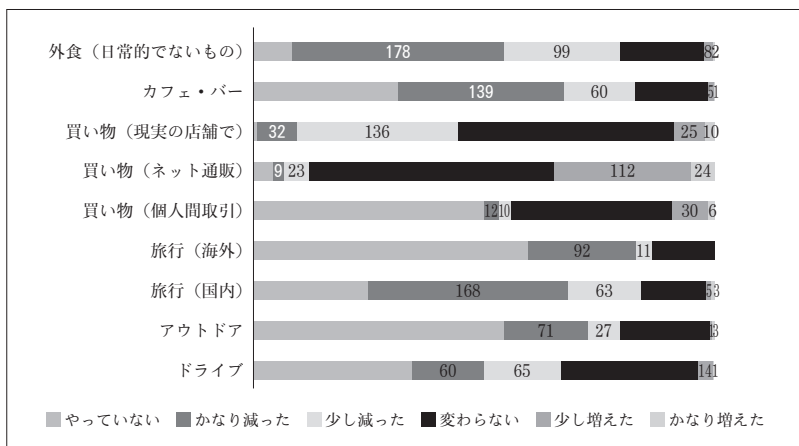
支払金額が大きく減少しているものとしては、「外食(日常的でないもの)」「カフェ・バー」などの飲食店や「旅行(国内)」「旅行(海外)」「アウトドア」「ドライブ」がある。これは緊急事態宣言の発令等により、店舗の営業時間が短縮されたことや人の動きが制限されたことに起因すると考えられる。また人が密集する場所が敬遠されたことで、図表11にある各種レクリエーション施設も軒並み支出額を減らしている。

一方で、巣ごもり需要の受け皿となっているのが「動画配信サービス」「書籍・雑誌」「買い物(ネット通販)」「ゲーム(家庭用ゲーム機, PC等)」の4項目である。いずれの財・サービスも自宅にいながら楽しめるものであ

図表9 コロナ禍前後の支払金額の変化1（単位：人）



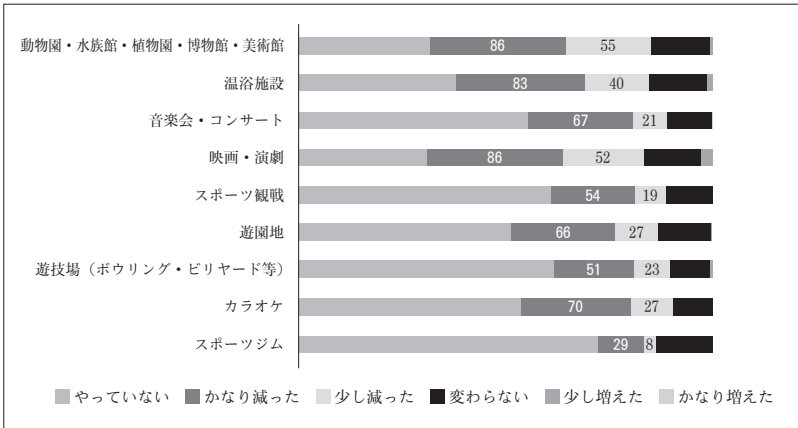
図表10 コロナ禍前後の支払金額の変化2（単位：人）



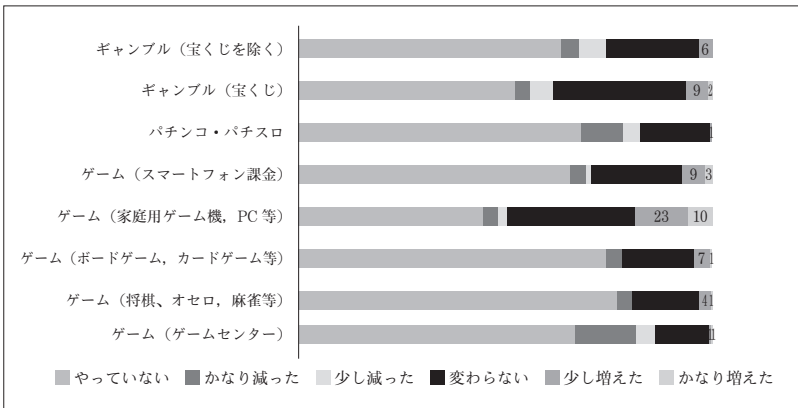
るが、「買い物（ネット通販）」に関しては、図表8の中で自由時間が増加した理由としては軽微なことからも分かる通り、余暇を生み出すためにオンラインショッピングの利用が増加したというよりもむしろ、外出制限の中、生

新型コロナ禍中における余暇消費動向に関する一考察

図表11 コロナ禍前後の支払金額の変化3（単位：人）



図表12 コロナ禍前後の支払金額の変化4（単位：人）

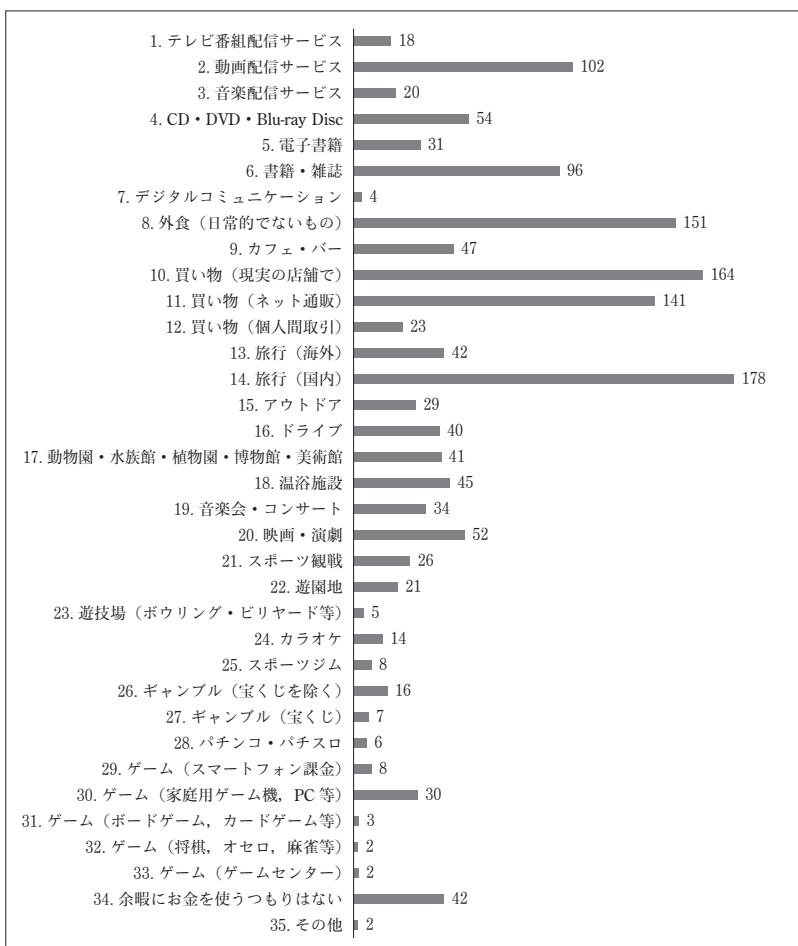


活の必要に駆られて支出額が増えているものと推察される。⁽⁴⁾

図表13は、2021年以降、余暇消費のために積極的に支出したいサービスに

(4) この観測結果は、鶴見他（2021）の言う、2020年では生活満足度とオンラインショッピングの負の関係が見られなくなったとする研究成果を補足するものと考えられる。

図表13 Q17. 2021年以降、積極的に支出したいもの（一人最大5つ選択）
（単位：人）



ついて、一人あたり最大5項目の選択回答の結果である。コロナ禍で制限を受けた「旅行（国内）」「買い物（現実の店舗で）」「外食（日常的でないもの）」が上位3項目となっている。また、「買い物（ネット通販）」「動画配信サービス」「書籍・雑誌」については、コロナ禍で支払額が増え、さらに引き続

新型コロナ禍中における余暇消費動向に関する一考察

図表14 Q18. 2021年以降、積極的に支出したいものへの年間支払予定額

	回答者数 (人)	平均 (万円)	中央値 (万円)
1. テレビ番組配信サービス	18	1.73	1
2. 動画配信サービス	102	1.56	1
3. 音楽配信サービス	20	1.19	1
4. CD・DVD・Blu-ray Disc	54	2.64	1
5. 電子書籍	31	2.47	1
6. 書籍・雑誌	96	2.77	1
7. デジタルコミュニケーション	4	0.83	1
8. 外食（日常的でないもの）	151	9.29	6
9. カフェ・バー	47	4.1	2
10. 買い物（現実の店舗で）	164	18.61	10
11. 買い物（ネット通販）	141	8.8	5
12. 買い物（個人間取引）	23	3.06	3
13. 旅行（海外）	42	43.71	30
14. 旅行（国内）	178	16.22	10
15. アウトドア	29	7.19	5
16. ドライブ	40	5.48	5
17. 動物園・水族館・植物園・博物館・美術館	41	2.44	2
18. 温浴施設	45	4.66	2
19. 音楽会・コンサート	34	5.85	3
20. 映画・演劇	52	3.56	1.5
21. スポーツ観戦	26	3.78	2
22. 遊園地	21	4.24	3
23. 遊技場（ボウリング・ビリヤード等）	5	3.4	2
24. カラオケ	14	2.09	1
25. スポーツジム	8	11.38	10
26. ギャンブル（宝くじを除く）	16	11.31	9
27. ギャンブル（宝くじ）	7	5.43	5
28. パチンコ・パチスロ	6	8.5	10
29. ゲーム（スマートフォン課金）	8	4.38	2
30. ゲーム（家庭用ゲーム機、PC等）	30	3.23	2
31. ゲーム（ボードゲーム、カードゲーム等）	3	1	1
32. ゲーム（将棋、オセロ、麻雀等）	2	1	1
33. ゲーム（ゲームセンター）	2	1	1
34. 余暇にお金を使うつもりはない	2	1	1

き利用したいと考える消費者が多いことを示している。

図表14では、Q17.で尋ねた「2021年以降、積極的に支出したいもの」への年間支払予定額を集計した。その平均額が10万円を超えたものは、「買い物（現実の店舗で）」「旅行（海外）」「旅行（国内）」「スポーツジム」「ギャンブル（宝くじを除く）」の5項目であり、以下「外食（日常的でないもの）」9.3万円、「買い物（ネット通販）」8.8万円、「パチンコ・パチスロ」8.5万円と続く。全項目における最大値は「旅行（国内）」の200万円であった。

Ⅲ. 分析結果のまとめ

これまでアンケート調査を通じて、2019年から2020年にかけての人々の行動や消費マインドの変化を見てきた。当該期間で回答者の年取に大きな変化は無いものの、先行きが見通せない中、消費マインドの冷え込みが見て取れる。他方、社会環境の変化により、とりわけ平日において、趣味・娯楽等に自由に使える時間的余裕が増加した。『レジャー白書 2021』によると、2020年の1年間で人々の「時間のゆとりは大幅に上昇し、支出のゆとりは過去最低⁽⁵⁾」とあるが、これは本調査の結果とも一致する。また、『レジャー白書 2021』には、「動画鑑賞の参加人口が増加、旅行や外食は減少⁽⁶⁾」、「希望率上位に外出を伴う種目多数」ともあるが、これらも概ね、国内旅行、現実の店舗での買い物や外食などの、制限を強いられた財に対する消費意欲が健在な一方で、動画配信サービスや書籍・雑誌、オンラインショッピング、家庭用ゲーム機といった、巣ごもり需要を満たしてくれる財への積極的な支出傾向が観測された本調査の結果と合致するものである。

日本では長らく、定年を迎えるまでは働くことを中心とし、余暇を楽しむのは現役引退後という風潮があったが、期せずして、働き方や生き方の変化

(5) 『レジャー白書 2021』 pp. 18-19.

(6) 『レジャー白書 2021』 pp. 22-23, 26-27.

新型コロナ禍中における余暇消費動向に関する一考察

を求められるようになった。ITの進歩とコロナ禍が相まって、テレワークやオンライン授業への移行が全国的に推進されたことで、通勤や通学など外出することに費やされていた時間資源を、趣味・娯楽をはじめとする様々な活動に充てられるようになったことは、Becker（1965）の提唱する生活時間の配分問題が、新たに現代で考察すべき課題として再提示されたと言える。

本研究では、コロナ禍中での消費者の巣ごもり需要の実態について、移動時間の削減に伴う余暇消費という観点から調査を行ったが、統計的な裏付けに基づいた分析には未着手であり、それについては別の機会に譲るものとする。技術革新と共に今後増加すると予測される人々の余暇時間の消費行動の経年変化を追い、余暇関連産業の動向について考察することを今後の研究課題としたい。

付録

<アンケート調査票>

- Q1. あなたの性別を教えてください。
- Q2. あなたの最終学歴を教えてください。
- Q3. あなたの職業を教えてください。
- Q4. コロナ禍前（2019年1月～2019年12月）とコロナ禍中（2020年1月～2020年12月）において、あなたの年収（手取り額）はいくらか、それぞれの項目について、当てはまるものを1つ選択してください。
- Q5. コロナ禍前（2019年1月～2019年12月）とコロナ禍中（2020年1月～2020年12月）を比べて、あなたが1か月間に（趣味・娯楽等に）自由に使える金額はどのように変化したと感じているか、当てはまるものを1つ選択してください。
- Q6. コロナ禍前（2019年1月～2019年12月）とコロナ禍中（2020年1月～2020年12月）において、あなたが1か月間に（趣味・娯楽等に）自由に使える金額は平均でいくらか、それぞれの項目について、当てはまるものを1つ選択し

てください。

- Q7. コロナ禍前（2019年1月～2019年12月）とコロナ禍中（2020年1月～2020年12月）を比べて、あなたが平日の1日間に（趣味・娯楽等に）自由に使える時間はどのように変化したと感じているか、当てはまるものを1つ選択してください。
- Q8. コロナ禍前（2019年1月～2019年12月）とコロナ禍中（2020年1月～2020年12月）において、あなたが平日の1日間に（趣味・娯楽等に）自由に使える時間は平均でどれくらいか、それぞれの項目について、当てはまるものを1つ選択してください。
- Q9. コロナ禍前（2019年1月～2019年12月）とコロナ禍中（2020年1月～2020年12月）を比べて、あなたが休日の1日間に（趣味・娯楽等に）自由に使える時間はどのように変化したと感じているか、当てはまるものを1つ選択してください。
- Q10. コロナ禍前（2019年1月～2019年12月）とコロナ禍中（2020年1月～2020年12月）において、あなたが休日の1日間に（趣味・娯楽等に）自由に使える時間は平均でどれくらいか、それぞれの項目について、当てはまるものを1つ選択してください。
- Q11. コロナ禍前（2019年1月～2019年12月）とコロナ禍中（2020年1月～2020年12月）を比べて、あなたが（趣味・娯楽等に）自由に使える時間が増えたと感じる理由として、もっとも当てはまるものを1つ選択してください。
- Q12. あなたの余暇の過ごし方についてお尋ねします。あなたがコロナ禍前（2019年12月）までに自分でお金を支払って体験したことがあるものを、以下の項目の中からすべて選択してください。
- Q13. コロナ禍前（2019年1月～2019年12月）とコロナ禍中（2020年1月～2020年
- Q16. 12月）を比べて、コロナ禍中に以下のサービスに対して、支払い金額がどのように変化したか、それぞれ当てはまるものを1つ選択してください。コロナ禍中にそのサービスを利用していない場合は「(0)やっていない」を選択してください。
- Q17. 2021年以降、あなたが余暇に積極的にお金を使いたいと思うものを最大5つまで、以下の項目の中から選択してください。余暇にお金を使わない場合

新型コロナ禍中における余暇消費動向に関する一考察

「余暇にお金を使うつもりはない」を選択してください。

- Q18. Q17. で選択したサービスに、それぞれ年間どれくらいお金を使いたいと思うか、その最大値を教えてください。(例) 10万円使いたい場合「10」と入力。
- Q19. 年齢
- Q20. 都道府県

参考文献

- Aguiar, M., Hurst, E. (2007a), “Measuring Trends in Leisure: The Allocation of Time over Five Decades,” *Quarterly Journal of Economics*, 122(3), pp. 969-1006.
- Becker, G. S. (1965), “A Theory of the Allocation of Time,” *The Economic Journal*, 75 (299), pp. 493-517.
- 栗原由紀子 (2020), 「生活時間と家計消費の地域パネル分析」, 『立命館経済学』, 69 (4), pp. 1-18.
- 黒田祥子 (2012), 「日本人の余暇時間」, 『日本労働研究雑誌』 (625), pp. 32-44.
- 鶴見哲也, 山口臨太郎, 箆橋一輝, 馬奈木俊介 (2021), 「コロナウィルス感染症流行下での消費と主観的福祉」, 『環境経済・政策研究』, 14(1), pp. 66-70.
- 阿部修人, 稲倉典子, 小原美紀 (2021), 「家計内サービス生産関数及び時間制約に関する一考察」, 『一橋大学経済研究所 経済社会リスク研究機構 Discussion Paper Series』, DP21-3.
https://risk.ier.hit-u.ac.jp/Japanese/pdf/dp21-3_rcesr.pdf (参照：2022-01-19)
- 公益財団法人日本生産性本部 (2021), 『レジャー白書2021』, 生産性出版.
- 朝日新聞 DIGITAL, 「新型コロナウイルス感染 日本の1年」
<https://www.asahi.com/special/corona/japan-yearly/> (参照：2022-01-19)